

令和3年度 新東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

中3の国語に関して、全国との平均差が-4.6であった。領域的には「話すこと・聞くこと」は-6.5、「書くこと」は-7.3、「読むこと」は-4.2、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は-2.8の差があった。特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」が大きく差が開いている結果となり、この二領域が課題であることがわかった。

＜数学＞

中3の数学に関して、全国との平均差が-4.2であった。領域的には「数と式」は-2.4、「図形」は-5.6、「関数」は-4.7、「資料の活用」は-3.1の差があった。特に「図形」「関数」が大きく差が開いている結果となり、この二領域が課題であることがわかった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)結果

中3において大阪府との平均差は国語-2.6、社会-6.7、数学-6.2、理科-3.6、英語-3.5であった。特に社会と数学が大きく差が開く結果となり、本校の課題であることがわかった。

○中学生チャレンジテスト(2年生)結果

中2において大阪府との平均差は国語-5.6、社会-6.5、数学-4.4、理科-6.1、英語-4.6であった。どの教科も-5ポイント近く差が開いているが、特に社会は大きく差が開いている結果となり、本校の課題であることがわかった。

○中学生チャレンジテスト(1年生)結果

中1において大阪府との平均差は国語-6.5、数学-10.4、英語-3.6であった。特に数学が10ポイント以上も大きく差が開いていることから、近々の課題であることがわかった。

○中学生チャレンジテストplus(1年生)結果

中1において大阪市との平均差は社会-7.2、理科-5.2となり

○GTEC(3年生)結果

リスニングにおいて、与えられている場面設定及び視覚情報と音声をつなぎ合わせて課題を解決する能力が低い傾向にある。またスピーキングとライティングにおいては語と文法の知識不足が共通している。リーディングでは単文レベルの英文の中で文脈的なつながりを理解し、文章を読解する問題の正答率が低かった。文章の流れを読み取る力とやはり語の不足が関係している。

【今後に向けて】

○この二つのテスト結果を受け、平均の差が大きい教科への取り組みはもとより、全体的な学習の取り組みが必要である。全体的な取り組みとして、各教科ともに基礎基本の定着を図るため、中学1年生・2年生の復習から始め、また、それを繰り返し行うことで基礎基本の定着を図りたい。2学期後半という時期もあり、発展的な問題への取り組みも大切だが、3年生全体としては基礎基本の学力の定着が最優先であることから、この取り組みに時間を費やし、集中して取り組んでいく。

○GTECの結果から英語科の授業において以下の取り組みを進めていく。

- ・絵や写真を見て、簡単な英文で状況を伝える活動(ピクチャーディスクリビング)。
- ・場面や状況に応じて適切な英語を書いたり伝えたりする活動。
- ・帯活動のスモールトークをテーマに変化を与えながら繰り返し行い、語や文法の幅を増やす。
- ・文脈を読み取る練習として会話文の読解問題に重点的において取り組む。